

第13回定例会 30年以上の歴史！若狭湾生物同好会

身近な自然の豊かさを再発見し、大切にしたい！

～ 坂根康弘さん(若狭湾生物同好会事務局長) ～

「まい研」第13回定例会を、6月24日(火)に西駅交流センターで開催し、舞鶴で最も由緒ある会員制の研究所である「若狭湾生物同好会(瓜生勝朗会長)」事務局長の坂根康弘さんに、その歴史と活動内容をご紹介いただきました。

「同好会」発足のそもそものきっかけは、1970年ごろのマナイ通り「夜の市」でした。当時、マナイ通りの中で1軒だけ空き店舗があったそうです。

「ここで展示会をしようか！」と自然好きの人たちの相談がまとまって、貝や植物、昆虫の標本を展示しました。そしたらなんと！数百人もの市民が見学にきました。

この展示会の成功により、1976年2月22日に「同好会」が発足。会員は最大130人まで増えました。その後、1988年に「青葉山レンジャー隊」発足、2000年に「同好会」の再発足をへて、現在に至ります。

活動目標は、「全ての生物、自然環境、史跡の保護・保存に努める」こと。具体的な活動としては、自然観察会、学習会を年に4回ほど開かれています。

「やっぱり人の集まる企画は、食べることです」と坂根さん。「海の幸を食べる会」、「寒ブリを食らう」、「カニで福あかし」はいつも大人気企画で、昨年11月の例会「キノコ狩りとキノコ汁」も50人を超える参加者でとっても楽しかったそうです。

「同好会」のこれからの課題としては、「市民参加の活動をもっと考えたい。他団体・機関との交流連携をすすめたい。子どもたちが自然に関心をもってくれるような企画を考えたい。子どもたちの自然観察会を開くと、市外から転勤で舞鶴に来られた親ごさんの方が『舞鶴は自然がいっぱいですねえ～』と驚かれるんですよ。舞鶴って、自然の豊かなところなんですね」と語られました。

志高地区の石炭の実物紹介など「地域資源」が盛りだくさんの定例会でした。



「舞鶴は自然がいっぱい」と語る坂根さん

「まい研」の第14回定例会の案内

1. 日時 8月26日(火) 19:00～21:00
2. ゲスト 竹田茂さん(舞鶴市総務部次長兼財政課長)
3. テーマ 舞鶴市の台所事情(財政状況)

「行け行け！かまぼこ調査隊レポート

6月14日～17日、製造者の皆さんへのヒアリング調査を実施！

「かまぼこ」にかける気迫と熱意に圧倒されました！

舞鶴蒲鉾協同組合に加盟している5つの製造者(株嶋七、高作商店、藤六商店、株嶋岩、丸海食品株)の皆さんにお話しを聞かせていただきました。調査に参加した全員が感じたのは、製造者の方々の「舞鶴かまぼこにかける気迫と熱意」です。

こだわりと姿勢、努力

舞鶴かまぼこへのこだわりは3点で共通していました。原材料にこだわる、練りにこだわる、蒸し上げにこだわることです。この舞鶴かまぼこにかける姿勢と努力によって、美味しい舞鶴かまぼこが作られていることを、ひしひしとを感じるヒアリング調査でした。

課題は3点で、これも共通しています。世界情勢の変化によって、かまぼこの良質な原材料確保の先行きが不透明なこと。かまぼこの主な購買層は中高年が中心なので、かまぼこの先行きが不透明なこと。原材料の大幅な高騰により秋に値上げを予定しているが、1枚500円を超える舞鶴かまぼこが消費者に受け入れてもらえるのかどうか等の課題です。

また、皆さんが共通して指摘されたのは、舞鶴蒲鉾協同組合の果たしている役割の重要性です。アラスカやインドなど世界中に広がる原材料市場、ヨーロッパや中国での魚肉需要の高まりによる急激な価格の高騰、そのなかで市場の先行きを見越して良質な原材料を確保する協同組合。初めて使用する原材料に対しては、協同組合独自に実施する品質検査。「原材料確保が国際的に広がっている現状では、協同組合のやっていることは、とても個人経営の会社ではできない。私たちにありがたい存在だ」と語られていました。

7月6日に第1次報告会

皆さんにお聞きした詳しい内容については、7月6日の第1次報告会でご紹介します。そして、7月には市民アンケート調査に取り組み、9月23日には「地域調査報告会」を開催する予定です。



株嶋岩の嶋田社長へのヒアリング



丸海食品株の若村社長から説明を受ける

「かまぼこ地域調査」第1次報告会の案内

1. 日時 7月6日(日)13:30～17:00
2. 会場 西駅交流センター 2F会議室1
3. 内容 製造者ヒアリング報告と市民アンケート

